

TOTO



TOTO水環境基金
TOTO Water Environment Fund

2025年度 助成先団体活動報告
2025年4月～2026年3月(第18・19・20回)

TOTO株式会社
(TOTO水環境基金事務局)
<https://jp.toto.com/company/sustainability/mizukikin/>




(2026年6月発行)

TOTO水環境基金

TOTOグループは、水まわりを中心とした、豊かで快適な生活文化を創造することで、社会の発展に貢献し、世界の人々から信頼される企業を目指しています。

持続可能な社会の実現のためには、企業の事業活動による貢献だけでなく、地域を支える団体の活動が欠かせないと考えています。地域を支える団体と協働で社会課題の解決を目指すために、2005年に「TOTO水環境基金」を設立し、地域の水と暮らしの関係を見直す継続的な活動を支援しています。

TOTO水環境基金のしくみ



「TOTO水環境基金」のロゴに込めた想い

水源のはじまりを象徴する「しずく」をモチーフに水の大切さを印象づけ、内包される青と緑で描かれた三角形の幾何学模様が、水と環境の密接さと、この取り組みが世界に波及していく様子をデザインしています。水が元来もつ美しさとともに、地球環境の大切さを伝える意図が込められています。

ステークホルダーの皆様の想いに応じて拠出額を算出

助成金は、お客様の節水商品購入による節水効果、株主様の寄付賛同、TOTOグループ社員のボランティア・寄付などの参加人数を金額換算し、TOTOのマッチングにより決定されます。ステークホルダーのかかわりが増すほど助成金が増えていく仕組みです。

地域を支える団体を助成

グループ社員から選出された選考員が「水環境にかかわる課題を共に解決したい」という想いをもって、「地域に根差した活動となりえるか」「一過性の活動ではなく、継続性があるか」という点を中心に選考を行い、助成先団体を採択しています。また、助成先団体のネットワークづくりのために「助成先団体交流会」を毎年開催しています。



©オイスカ

地域社会との協働

助成先団体の活動に、TOTOグループ社員も地域の方とともに参加しています。助成期間終了後も、助成先団体をはじめとする地域の皆様との交流は続き、年々活動の輪が広がっています。



社会課題への意識の向上

TOTO水環境基金とのかかわりをきっかけに、社内外のステークホルダーの社会課題に対する意識が向上することで、活動の輪が大きく広がっていきます。



助成金 総額

3,118万円

助成によって団体が実施した活動の成果



助成先団体

23団体



活動回数

2,187回



活動参加人数

16,479人

うちTOTOグループ参加人数 223人



ごみ回収量

16,060kg



海外設備設置
(トイレ、手洗い、給水タンクなど)

23基



保全整備した
面積

3,145,630㎡



植樹本数

2,606本



環境・衛生教育
参加人数

20,715人



有害生物の駆除・除去
(動・植物)

3,042匹・1,070kg

第20回(1年目) 助成先団体一覧

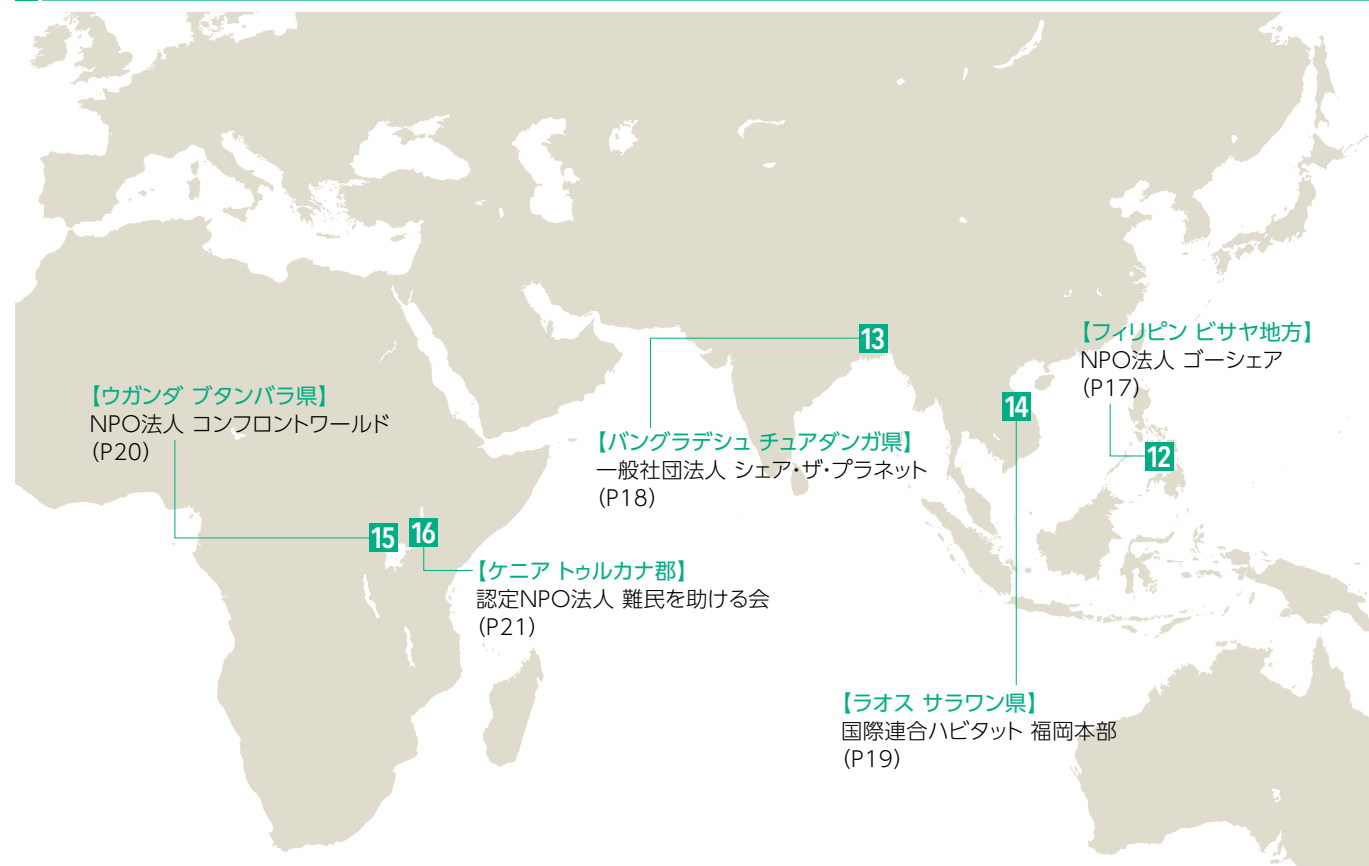
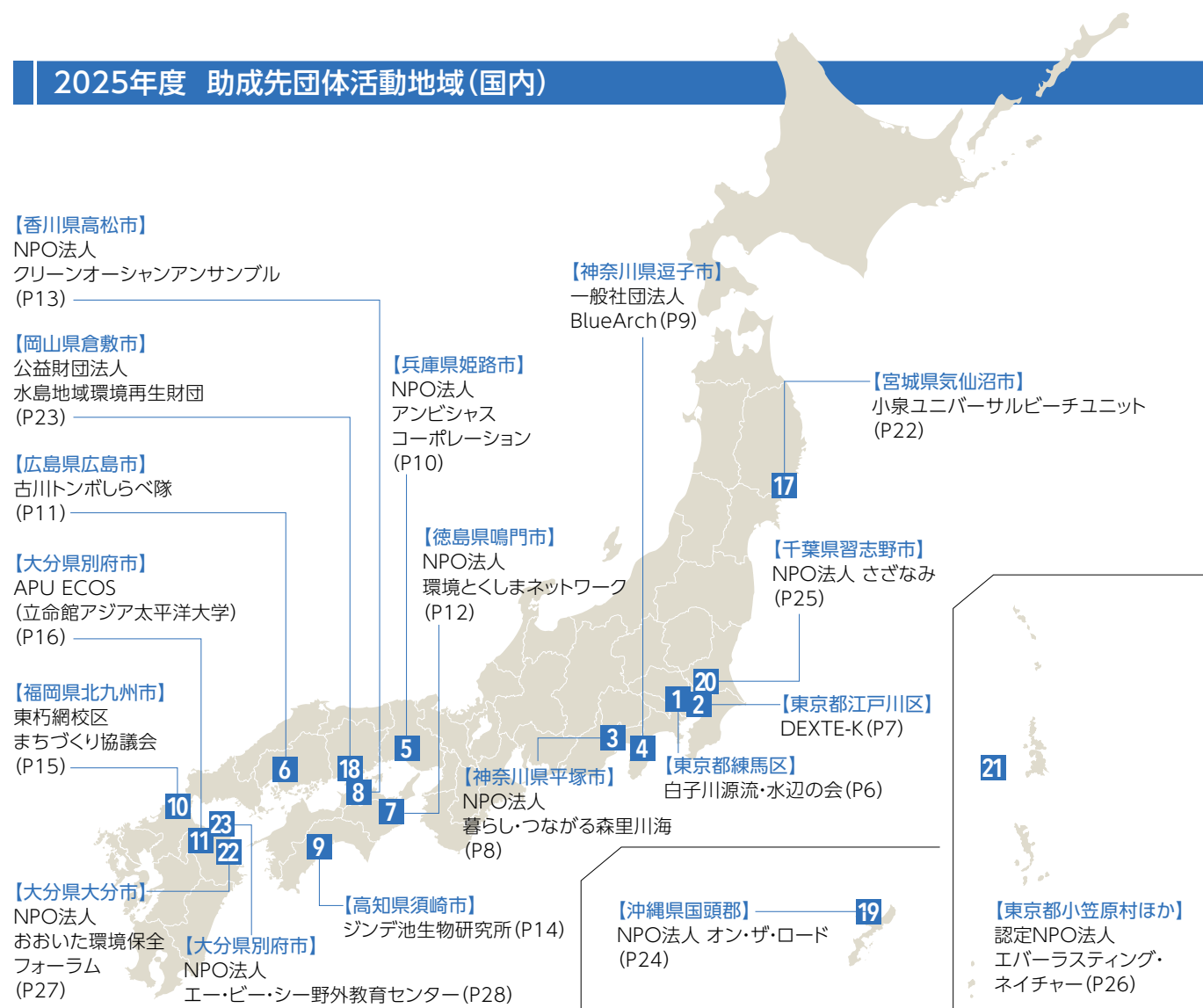
No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
1	白子川源流・水辺の会	地域社会を巻き込んだ白子川源流の自然環境の保全	東京都練馬区	6
2	DEXTE-K	西なぎさ発:東京里海エイド	東京都江戸川区	7
3	NPO法人 暮らし・つながる森里川海	湘南いきもの楽校プロジェクト 「子供が元気、生きものの元気、地域が元気」	神奈川県平塚市	8
4	一般社団法人 BlueArch	テクノロジーを用いて海の生態系を学び、育て、海の恵を 味わうことができる、次世代の環境学習イベント開催	神奈川県逗子市	9
5	NPO法人 アンビシャス コーポレーション	外堀川クリーンプロジェクト	兵庫県姫路市	10
6	古川トンボしらべ隊	古川の水辺環境とトンボ相の保全に資する普及啓発活動	広島県広島市	11
7	NPO法人 環境とくしまネットワーク	僕らの海を取り戻そう!「せとうち未来スケッチ」プログラム	徳島県鳴門市	12
8	NPO法人 クリーンオーシャンアンサンブル	河川ごみの海洋流出防止プロジェクト	香川県小豆郡	13
9	ジンデ池生物研究所	ジンデ池と里山をもっと生物多様性豊かな環境へ	高知県須崎市	14
10	東朽網校区まちづくり協議会	水と緑の美化プロジェクトパート2 ～水晶山から曾根干潟 故郷の自然を次世代へ～	福岡県北九州市	15
11	APU ECOS(立命館アジア太平洋大学)	「APU ECOSと未来のリーダーシップ」プロジェクト	大分県別府市	16
12	NPO法人 ゴーシェア	フィリピン・パンダノン島における、命を支える水環境改善	フィリピン ビサヤ地方	17
13	一般社団法人 シェア・ザ・プラネット	地下帯水層負担軽減稲作の普及	バングラデシュ チュアダンガ県	18
14	国際連合ハビタット 福岡本部	雨水貯水地下タンクの設置活動	ラオス サラワン県	19
15	NPO法人 コンフロントワールド	自治体・住民連携型の ウガンダ農村部の子ども・弱者の水衛生環境改善	ウガンダ ブタンバラ県	20
16	認定NPO法人 難民を助ける会	難民と地元の 女子生徒のための学生寮衛生改善プロジェクト	ケニア トゥルカナ郡	21

第19回(2年目) 助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
17	小泉ユニバーサルビーチユニット	水環境を整え自然界を保全していくまちづくり	宮城県気仙沼市	22
18	公益財団法人 水島地域環境再生財団	瀬戸内海の守り人「海ボウズ」育成プロジェクト	岡山県倉敷市	23
19	NPO法人 オン・ザ・ロード	沖縄でのビーチクリーンと アップサイクル体験による5R普及活動	沖縄県国頭郡	24

第18回(3年目) 助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
20	NPO法人 さざなみ	習志野の海を守る会「とりもどせ!!ばくたちの海」	千葉県習志野市	25
21	認定NPO法人 エバーラスティング・ネイチャー	絶滅危惧種であるウミガメ類の 海洋ゴミ誤食調査と普及啓発イベント	東京都小笠原村ほか	26
22	NPO法人 おおいた環境保全フォーラム	豊かな水環境を目指す 別府湾エココストプロジェクト	大分県大分市	27
23	NPO法人 エー・ビー・シー野外教育センター	子どもたちのウエス作りが別府市の水環境を変えていく!	大分県別府市	28



2001年6月、東京都練馬区西部の住宅街を流れる湧き水の小川(白子川)の源流に吸い込まれるように、地元の有志が集い、川への熱い思いを語りあう中で「白子川源流・水辺の会」が設立されました。地域の大勢の力を合わせて、多様な生態系と貴重な水辺環境の保持を目指しています。現在の主な活動は、毎月実施する市民参加の定例活動および水をテーマとした『白子川源流まつり』の開催、流域にある各小学校の環境教育の支援活動などです。



白子川まつり生き物コーナー

地域社会を巻き込んだ白子川源流の自然環境の保全

◎活動地域 | 東京都練馬区 白子川源流エリア(練馬区)／近隣小学校(練馬区)／白子川ワクワクパーク(和光市)

◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

白子川の自然環境保全に向けて、地域を巻き込んだ多様な活動を推進しました。毎月定例の清掃活動の拡充・強化を行うとともに、小学校への環境学習支援や各種イベントの開催を通じて、地域社会と白子川の関係性を深めました。また、新たな取り組みとして、行政や市民、団体が協力して河川環境の保全に取り組む「川のサポーター制度」の導入や、市民にとって魅力ある活動にするための様々な工夫や、SNSの活用などを行い、活動内容の充実を図りました。

実施結果

今年度は「地域を巻き込む」ことに軸足を置いて活動しました。助成により、例年以上に白子川の水辺環境の保全を順調に推進することができて、多くの地域住民に当団体の活動に参加していただきました。月一回の定例活動では、一般参加者とともに川掃除やザリガニの捕獲などを行いました。小学校3校に川体験サポートと出前授業を行い、絶滅危惧種のホトケドジョウなどの生態系を伝えました。また、初めて開催した先生だけのフィールドワークは大変好評でした。SNS強化として公式Instagramを立上げ、白子川の魅力などを発信しています。「白子川源流まつり」では、生き物の展示、水質検査体験、白子川クイズなど多くのイベントコーナーを設けて開催しました。事前のチラシ配布やInstagramなどでの告知により、小雨模様の天気でしたが1,000名ほどの参加者がありました。

〈定量成果〉

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	92回	▶	55回
活動参加人数	3,350人	▶	2,968人
ごみ回収量	100袋	▶	187袋
保全整備した面積	7,000㎡	▶	7,000㎡(源流域長さ700m×幅10m)
有害生物の駆除(動物)	1,000匹	▶	3,402匹(アメリカザリガニ)
有害生物の駆除(植物)	300本	▶	420本(ミズヒマワリ)
環境教育参加人数(のべ人数)	650人	▶	720人(小学校の児童参加者)
会報発行部数	3,600部	▶	3,600部
会員新規加入者	20人	▶	8人

活動に関わった方の声

《中学生A君》

今回の源流まつりに運営ボランティアとして参加したことで、絶滅危惧種のホトケドジョウや外来種のアメリカザリガニなどの多様な生き物について、子どもたちに伝えることができてとても有意義でした。

《参加の親子Kさん》

初めて白子川まつりに参加しましたが、川に関係するイベントやコーナーなどが盛りだくさんでとても楽しめました。都会の中に湧き水のきれいな川があることや、絶滅危惧種の生態系が守られていることを知ることで良かったです。

《小学校 学年主任》

地域の環境について教員の意識を変える必要を感じ、子どもたちの前に私たち教師が白子川を通じて地域を愛することの大切さを学ぶ機会となりました。



白子川まつり生き物コーナー



全国一斉川調査

当団体は、コミュニケーションを大切にし、よりよい豊かな生活空間を創造することを理念に、高い技術と洗練されたデザインとの融合により、快適な空間やライフスタイルの提案をしている任意団体です。

プロボノ活動で運営しており、建築専門知識を軸に、技術とデザイン力を活かして「環境保全」「政策提言」「減災提言」「人材育成」などの活動を展開しています。



ビーチコーミングによる万華鏡づくり

西なぎさ発:東京里海エイド

◎活動地域 | 東京都江戸川区 葛西海浜公園／西なぎさ

◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

本プロジェクトの活動地である「西なぎさ」は、2018年にラムサール条約登録湿地となった、生物にとって極めて希少な場所である一方で、河川からの漂着ごみが絶えないという課題を抱えています。この課題を解決するために、2009年から継続している、誰でも気軽にボランティア参加できるビーチクリーン活動や、地域の子どもたちを対象にした生物観察会の実施など、地域住民を巻き込んだ様々な環境保全活動を推進しました。

実施結果

定例の「西なぎさ発:東京里海エイド」の活動開催が中止となったのは1回のみ(5月)であり、天候にも恵まれて概ね計画とおり進められました。予定より1回減となりましたが、参加者数および収集する漂着ごみの量はともに年間の目標を上回る結果となりました。江戸川子ども未来館とのコラボ企画である水生生物観察会とビーチコーミングによる万華鏡づくりも予定通り2回開催できました。また、参加者の方に小冊子を差し上げ、活動参加ごとにスタンプを押印し、押印数がたまるとインセンティブが受け取れる「東京里海パスポート」制度が浸透してきており、リピーター参加者数が増えています。パスポートのデザインを工夫したり、少しでもローコストで楽しく運営する点に苦労していますが、より多くのステークホルダー拡大につなげていきたいと思っています。

〈定量成果〉

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	10回	▶	9回
活動参加人数	490人	▶	503人(うちTOTOグループ社員 5人)
ごみ回収量	400kg	▶	448kg
保全整備した面積	3,000㎡	▶	3,000㎡
粗大ごみ数	200個	▶	96個



海岸清掃活動の様子



海岸ごみ拾い風景

活動に関わった方の声

《生物観察会に参加者した女性》
シロチドリのお卵、初めて見ました！
マイクロプラスチックの上でも、たくましく子育てしているんですね。より安心して子育てができる、頼られる西なぎさになると良いですね。

《ビーチクリーンに参加者した女性(中学生)》
海岸のごみとしてペットボトルなどの比較的大きいものをイメージしていたのですが、実際には小さいプラスチックの破片がいっぱい落ちていたということに気づき、驚きました。

《ビーチクリーンに参加者した大学生》
葛西臨海公園の環境の特殊性や、都市のごみがマイクロプラスチックとして流れ着く仕組みについての説明が印象的でした。実際に活動してみて、人の手で維持管理を続ける必要性を強く感じました。人工干潟という、自然と人がせめぎ合う環境を体験でき、とてもおもしろかったです。

2001年4月、川の自然と触れ合える場をつくろうと行政との協働活動により、相模川の下流域、馬入川に自然の遊び場「馬入水辺の楽校」を設立しました。カエル池やトンボ池を作るなど、不法投棄の場の自然環境を復元しました。自然環境の保全活動に加え、主に子どもたちを対象に多様な環境学習活動を展開しています。カヤネズミの生息地保全活動やウナギの棲む川づくり運動など、生物多様性の保全にも力を入れています。当地を地域の環境学習活動の拠点に育てるために、フィールドミュージアム(自然生態園)作りに取り組んでいます。



いきもの調べの会

©暮らし・つながる森里川海

湘南いきもの楽校プロジェクト「子供が元気、生きもの元気、地域が元気」

◎活動地域 | 神奈川県平塚市 馬入水辺の楽校

◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

馬入水辺の楽校をフィールドミュージアム化し、地域の子どもたちをはじめとした市民が、自然との触れ合いを深めるための多様な環境体験を展開しました。「浜口哲一自然観察の路」の整備や、新トンボ池やバタフライガーデン、エコスタックなど生き物たちの豊かな生息環境を創出する取り組みなど、市民参加型の保全活動を行いました。また、子どもが楽しめる環境学習活動に加え、大人向けの環境学習「馬入写真楽校」などを開催しました。

実施結果

馬入水辺の楽校のフィールドミュージアム化を進めるため、市民参加の催しを48回開催し、2,000人余りの市民が参加しました。バタフライガーデンチームを結成して栽培面積を拡大したり、新たに絶滅危惧種「カワラノギク」の圃場を造成しました。初の試みとして、後継者育成を目的として大人を対象にした「馬入写真楽校」を開催し、写真展を開催しました。また、500人を超える市民が参加したSDGs推進のイベントでは子どもたちの元気な姿が多く見られ、私たちの取り組みをPRできたと感じています。

〈定量成果〉

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	50回	▶	48回
活動参加人数	3,500人	▶	2,000人
保全整備した面積	—	▶	2,500㎡(葛原のエコアップ 攪乱)
環境教育参加人数(のべ人数)	—	▶	2,000人
バタフライガーデン整備	—	▶	360㎡

活動に関わった方の声

《トコロジスト養成講座に参加した小学5年生男子》
クマバチを捕まえました。先生に教えてもらったことの中で、特にクマバチに向かって木の枝や石を投げると敵だと思って攻撃してくるというのが面白かったです。リバーセンターでは、たんぽぽは花粉の大きさと種類を判別できることを知りました。

《みんなの畑に参加した小学校3年生男子》
じゃがいもを収穫しました。まだきれいに花が咲いているときでも収穫できることを知らなかったのが驚きました。傷をつけないように大きなシャベルで掘り起こすのは大変だったけれど楽しかったです。畑はみたことがない生きものに会えるので楽しいです。



養成講座 草花調べ



芋掘り体験

焼き芋づくり

当団体は、豊かな海を未来へつなぐ架け橋となることを使命に、海洋環境の保全と再生を目指し、科学技術を活用した調査・研究・実証を通じて持続可能な海洋利用を推進しています。また、次世代を担う小学生を対象に、地域の漁業者とエンジニアが協力する環境学習イベントを実施しています。このイベントでは海中ロボットやAI技術を活用した体験を通じて、海の変化とその重要性を実感することで海を守る意識を育み、環境問題解決に取り組む若者の育成と、未来のリーダーシップの形成を目指しています。



水中ドローンの操作体験を行う小学生たち

テクノロジーを用いて海の生態系を学び、育て、海の恵を味わうことができる、次世代の環境学習イベント開催

◎活動地域 | 神奈川県逗子市

◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

地域の熟練漁業者と若手エンジニアが協力して、小学生を対象とした体験型環境学習イベントを開催し、次世代を担う未来のリーダー育成を図りました。参加者に「磯焼け」という深刻な海洋問題について知ってもらうとともに、海中ロボットやAI技術など、新たなテクノロジーを活用した環境問題へのアプローチを体験してもらい、海の環境保護に対する関心を深めてもらいました。豊かな海を守りたいという意識をより高めるため、漁業体験や地域の海産物の試食などもあわせて実施しました。

実施結果

2023年度より継続して開催している環境教育イベントは、本年度で3回目の実施となりました。ドローン操作やAI学習を中心に、参加者一人ひとりがより深く体験できる構成としたことで、保護者様も含めて高い満足度を得ることができました。時間をかけて体験の質を重視した運営により、参加者が主体的に学び、興味関心を深める様子が多く見受けられた点は大きな成果であったと認識しています。一方で、内容を充実させるがゆえの時間配分や体験内容の整理については改善の余地があると認識しており、今後は体験の質との運営バランスを両立し、より価値の高いプログラムの提供に努めてまいります。

《定量成果》

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	2回	2回
環境教育参加人数(のべ人数)	28人	18人



海底に広がる海藻の映像から、AIを使った被度調査の手法を学ぶ小学生たち



ワカメの種付けを体験する小学生たち

活動に関わった方の声

《保護者のTさん》

ワカメの養殖方法や、環境におけるワカメの大切さ、それらをプログラミングによるAIを使って保全に努めていることには驚きました。また水中カメラを操縦するなど、貴重な体験を楽しめたようで良かったです。

《保護者のYさん》

体験の内容が多岐に渡りおもしろかったです。人数的にもきめ細やかに見ていただける設定だったので、過密のストレスなどもなく心身ともに快適でした。

《保護者のKさん》

水中ドローンの操作ができたことなどはとても学びがあり、子どもが大変喜んでいました。

「つながり・まなび・あそび」をテーマに住環境の充実とコミュニケーションの発展に寄与する活動を行っています。活動を通じて道徳心、互助精神、コミュニケーション能力を育み、社会教育の一環を担うことを目指しています。個人や団体、子どもからご高齢までを対象とした多世代・異業種交流によるネットワークづくりと経済活性化を図るほか、社会的弱者等への相談・支援・体験イベントを通じて、暮らしや幸福量の向上に取り組んでいます。



環境や地域課題について意見交換を行う参加者

外堀川クリーンプロジェクト

◎活動地域 | 兵庫県姫路市

◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

外堀川は、姫路城本格築城の名残を残す流路であり、地域住民の散歩やウォーキング、子どもたちの遊び場として利用されています。しかし近年では、不法投棄や各水路から大量のごみ流れ込むなどの環境悪化が課題となっていました。本プロジェクトでは、本来の美しい外堀川の復元を目指して、定期的な清掃活動や、地域住民や行政への情報発信の強化を通じて、人々の環境破壊への課題認識や不法投棄に対する問題意識の向上を図りました。

実施結果

助成により装備や道具の消耗品が新調でき、参加者の方々に提供できたことが大きな活躍につながりました。毎回取り入れている、活動前のオリエンテーションや活動後の振り返りは、地域課題の共有や意見交換の場となり、様々な学びやつながりが生まれた有意義な活動でした。参加者からは「川の中からの景色を見上げる機会がないので貴重な体験ができた」など様々な意見をいただいています。ただ、ボランティア活動に意欲がある方や率先する方が減ってきているように感じており、実際に参加者数が減少傾向にあるのが今後の課題の一つかなと思っています。

《定量成果》

	計画値	結果
助成対象事業の活動回数	6回	5回
活動参加人数	300人	130人(うちTOTOグループ社員 25人)
ごみ回収量	1,500kg	900kg
保全整備した面積	3,800㎡	—
環境教育参加人数(のべ人数)	200人	22人

活動に関わった方の声

《活動に参加した学生》

初めて参加しました。思った以上にゴミが多くて、水を含んで重かったりヘドロで臭く汚れて大変でした。捨てるのは一瞬で簡単ですが、それらを拾うのはしんどかったです。しかし綺麗になっていくのが楽しかったです。感慨深い体験でした。

《活動に参加した地域住民》

川の中に入ることがないので、いつもと違う視点から体感できて斬新な景色を見ることができました。

《活動に参加した地域住民》

初めはごみの多さにびっくりしたけど、みんなで綺麗にしていったことによって、充実した清々しい気持ちになりました。



清掃活動の様子



不法投棄ゴミの引上げ回収

6 古川トンボしらべ隊

【代表者】 吉田 亜希

古川は広島市中心部から約9km離れた安佐南区を流れ、広島を支える太田川の支川です。この古川における生き物の観察会を通して、古川でみられるトンボ相の多様性に特に感銘を受けた地域住民が中心となり、2018年に「古川トンボしらべ隊」を設立しました。当団体は、古川における生き物の多様性やそれを育む環境について、地域住民の理解の促進、ひいては環境保全につなげるべく、定期的な調査活動、周辺地域のごみ収集、地域住民に対しての野外観察会や、種々の展示会の実施に取り組んでいます。



古川の環境と古川のトンボ相についての解説

古川の水辺環境とトンボ相の保全に資する普及啓発活動

- ◎活動地域 | 広島県広島市安佐南区
- ◎助成期間 | 3年間



プロジェクト内容

古川には、広島県内で確認されているトンボの51%が生息しており、それを育む多様な環境が存在しています。本プロジェクトでは、この比類ない多様なトンボたちと豊かな自然を守り、その魅力を伝えるために、継続的なモニタリング調査や清掃活動に加え、地域住民向けの観察会などを実施しました。加えて、古川の魅力を広く知ってもらい、保全活動がさらに広がるよう、地域住民や河川管理者などと連携した情報発信にも取り組みました。

実施結果

これまで続けてきたモニタリング調査活動の継続と、地域住民に対する野外観察会・パネル展示を効果的に実施することをプロジェクトの主な活動として行いました。野外観察会には多くの地域の方々に参加していただき、古川における生き物の多様性やそれを育む環境に関する理解の促進につながったと感じています。さらに新たな入会者が加わったことも成果です。一方でごみ収集に関しては、観察とごみ拾いを同時に行うことの難しさもありました。今後は、観察会とごみ拾いの両方を行えるようにやり方を考慮していきたいと考えています。調査結果をもとにした野外観察テキストも発注済みで、仕上がりを楽しみにしています。

〈定量成果〉

	計画値		結果
助成対象事業の活動回数	5回	▶	5回
活動参加人数	100人	▶	85人(うちTOTOグループ社員 1人)
ごみ回収量	90kg	▶	31kg



ヤゴ観察



古川の生き物観察会

活動に関わった方の声

《観察会に参加した地域住民》
トンボのヤゴは全部同じ形をしていると思っていたので、ヤゴがこんなに形が種類によって違うことを初めて知りました。ヤゴをとったことも初めてでした。

《観察会に参加した地域住民》
ヤゴを実際に見ることができて、色々な形をしていることがびっくりしました。オニヤンマのヤゴは、大きくて迫力がありました。

《観察会に参加した地域住民》
近くの古川で、1年を通じて色々な種類のトンボが見られることがわかりました。秋以外にもトンボが飛んでいるということを知って驚きました。これからは、よく見てみたいです。

7 NPO法人 環境とくしまネットワーク

【代表者】 島田 公

当団体は、四国四県の地域住民の主体的な活動のもと、地域密着型の環境保全活動、地域の現状調査・開発研究、地域のエネルギー活用に向けた実践や普及活動、地域間交流等の事業を行っています。自然と社会の共存のあり方を創造し、自然共生型の社会づくりに貢献することを目指して、環境保護活動、森林保全活動、省エネ推進活動、消費者保護活動、家づくり支援活動など、幅広く様々な活動を展開しています。



海岸清掃風景

僕らの海を取り戻そう!「せとうち未来スケッチ」プログラム

- ◎活動地域 | 徳島県鳴門市鳴門町
- ◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

近年、海洋ごみの増加や地球温暖化による海水温上昇、それに伴う漁獲量の低下などが深刻化し、環境海洋教育への関心が高まっています。本プロジェクトでは、せとうち鳴門海岸での清掃活動を子どもたちの体験学習の場とし、流木を用いた「流木アート」や、海岸石で描く「ストーンアート」の製作などを行いました。これらの活動を通じて、子どもたちが楽しみながら瀬戸内の海に触れ、海を守るための行動について学ぶ機会を提供しました。

実施結果

「せとうちの未来スケッチ」は、定期的な市民参加型の海ごみ清掃や次世代を担う子供たちの参加プログラムです。一番の成果はこれまで行ってきた海ごみの処理に加え、海岸漂着ごみの流木を活用したアート製作を実施したことだと思っています。海の未来へのメッセージを込めた作品として、現代社会(ネット社会)のスタイルにマッチした新感覚の環境NPO活動を展開することができました。今回の活動は今後の活動の方向性を見極める大きなスタートとなり、地域社会からの期待や多くの方々の活動への理解と協力が向上・進行し始めました。私たち団体としても、今年の活動に恥じない取り組みを続け、持続可能なせとうちの未来づくりにチャレンジしていきます。

〈定量成果〉

	計画値		結果
助成対象事業の活動回数	3回	▶	5回
活動参加人数	60人	▶	131人(うちTOTOグループ社員 20人)
ごみ回収量	800kg	▶	1,040kg
保全整備した面積	1,170㎡	▶	1,170㎡

活動に関わった方の声

《清掃活動参加者(55歳女性・会社員)》
「流木ゴジラ」で有名になっている海岸での清掃活動に初めて参加し、地域のことや暮らしのことに真剣に取り組んでいる団体にも感動しました。製作された「流木ゴジラ」は作成クオリティーが高く、解体されることは、少し寂しく感じますが、活動の象徴として強く心に残りました。

《清掃活動・流木ゴジラ解体活動参加者(42歳男性・団体職員)》
SNSで話題になっている「流木ゴジラ」は、流木のユニークで創造的な使い方・アートとしての評価が高く、環境問題を楽しくわかりやすく問題提起している点で素晴らしいと思います。



流木アート「ゴジラ」を解体している様子



海岸清掃風景

当団体は、2020年設立のNPO法人で、海洋ごみ問題の解決に取り組んでいます。

独自の低コスト回収技術やデジタルツールを活用し、海洋ごみの収集・再資源化・データの可視化を推進。さらに「海洋ごみ回収クレジット」や協賛プログラムを通じて企業や個人の支援を集め、持続可能な資源循環を目指します。

日本を拠点に、世界各地と連携し、環境保全と経済発展を両立する未来を創造しています。



集合写真

©クリーンオーシャンアンサンブル

河川ごみの海洋流出防止プロジェクト

◎活動地域 | 香川県小豆郡小豆島町

◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

海洋ごみの約8割は河川から流出したものとされており、海洋汚染の改善には新たなごみの流出を防止する取り組みが必要とされています。

本プロジェクトでは、独自に開発した河川ごみ回収装置の実証実験を行いました。この回収装置を、海洋汚染を改善するための新しいアプローチとして他のエリアへの展開するために、現場のオペレーションや回収装置の改善について確認し、河川ごみの海洋流出防止システムの社会実装を目指して取り組みました。

実施結果

2025年度は海洋ごみ問題の根源である河川での回収事業を大きく前進させることができました。特に、独自開発した回収装置の実証実験を完遂し、現場運用の詳細な知見を得られたことは、当団体にとって極めて重要な成果です。これらの活動を通じて、単なるごみ回収に留まらず、他地域への横展開を可能にするための具体的な運用指針を確立することができました。2026年度以降は、香川県内での活動をさらに深めるとともに、蓄積したデータを活用した広域的な展開を目指します。今後も「海洋ごみゼロ」の実現に向けて邁進してまいります。



ごみの計量



回収装置

《定量成果》

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	4回	▶	4回
ごみ回収量	120kg	▶	76kg

活動に関わった方の声

《実際の作業をした方(20代)》

今まで意識していませんでしたが、回収装置に入っているごみを見て、詰田川がどれだけ汚れているかということを認識することができました。今後もこの活動にかかわっていきたいです。

《見学にこられた地元の方Mさん(70代)》

とても意義がある活動だと思います。この装置を全国の河川に設置し、川から流れ出るごみを少しでも減らせるよう頑張ってください。

《視察に来られた企業の方(30代)》

映像では見ていましたが、実物を見て改めてこの装置の優位性を確認することができました。この活動をもっと広められるお手伝いできればと思います。

当団体は、高知県須崎市にあるジンド池で活動しています。廃止計画の立っていた池を地域に残し、保全していきたいという想いから、2019年に調査を開始し、2021年にジンド池生物研究所が設立されました。現在は「ジンド池を保全し、生物多様性を未来に繋ぐこと」を目標に活動を行っています。主に保全活動、生物調査、情報発信の三本柱を活動の目的とし、中学生・高校生・大学生が中心となって、地元の小学校や地域と連携しながら活動しています。



活動の様子

©ジンド池研究所

ジンド池と里山をもっと生物多様性豊かな環境へ

◎活動地域 | 高知県須崎市安和 ジンド池

◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

継続的な生物調査により、ジンド池とその周りの里山環境の生物多様性を解明する活動を行いました。調査に加えて、観察会やセミナーなど、地域住民や子どもたちに当団体の活動や生物多様性について知ってもらうためのイベントも開催しました。また環境整備活動として、地域住民とともに池周りの樹木伐採を行うなど、より生物にとって生息しやすい環境を作り、人が手を入れて守っていく「里山」の自然を未来に繋いでいくことを目指して活動しました。

実施結果

今回のプロジェクトにおいて、定例生物調査、ジンド池生物多様性セミナーおよびセミナー準備などを含め全17回の事業を行うことができました。活動への参加人数は当初予定を大きく超え、多くの人にジンド池や里山の生物や環境について知っていただくことができました。活動には小中学生や未就学児なども多く参加しており、環境教育としても成果をあげることができたと思います。人手を要する保全活動も着実に実施できたことで、ジンド池とその周辺環境、里山を「地域とともに未来に繋いでいく」という当団体の目標にまた一歩近づくことができました。一方で枯死木の伐採などに関してはやり残した思いもあり、2026年度以降の課題として認識しています。

《定量成果》

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	15回	▶	17回
活動参加人数	50人	▶	133人(うちTOTOグループ社員 1人)
ごみ回収量	100kg	▶	1,970kg
保全整備した面積	1,200㎡	▶	1,200㎡
有害生物の駆除(動物)	必要に応じて駆除	▶	—
有害生物の駆除(植物)	必要に応じて間伐・除草		600kg(ヒシ 泥含む)
環境教育参加人数(のべ人数)	40人		90人
枯死木の伐採	7本		7本(スギ・アラカシ)

活動に関わった方の声

《参加した小学生の保護者》

親子でとても楽しめました。普段は池ばかりに目がいていましたが、池の中や周辺にも目を向けることができました。講演は身近な虫が減っていると感じていたため、興味をもって聞くことができました。米作りと環境のお話は息子と一緒に学び、家庭まで広げることができました。

《小学校5年生(男子児童)》

ごみ出しと生き物さがしをやって、ジンド池の環境が守られて良かったし、生き物調査もできて楽しかったです。

《安和小学校5・6年生 担任》

予想以上にごみがあって驚きましたが、子どもたちが頑張ってくれました。地域にこんなに素敵な場所があるとわかったので、子どもたちの探求の学びにこれからもつなげていきたいです。



講演の様子

©ジンド池研究所



ゴミの撤去作業

©ジンド池研究所

近年、少子高齢化、核家族・単身世帯の増加、個別団体への加入率低下など地域を取り巻く環境が著しく変化している中、小学校区単位で地域コミュニティのネットワークを構築するとともに、住民の福祉活動、コミュニティ、生涯学習の拠点として当団体が設置されました。各部会、ボランティアグループ、世代を超えた各団体と協働し、環境保全活動を行っています。北九州の最東に位置し、美しい水辺と緑に囲まれている故郷へのシビックプライドを醸成し、次世代へとつなぐことを目指しています。

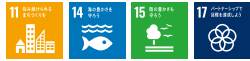


昭和池周回清掃

水と緑の美化プロジェクト パート2 ～水晶山から曽根干潟 故郷の自然を次世代へ～

◎活動地域 | 福岡県北九州市 東朽網校区全域

◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

活動地である東朽網校区内には、水源である水晶山から昭和池、朽網川、曽根干潟まで豊かな水環境が存在しています。また、昭和池の貯水は校区内だけでなく小倉南区曽根平野の農地を潤す役割もあります。源流から干潟までの水環境と里山・里地・里海の環境保全と、オシドリやハマボウ、カブトガニ等地域の希少生物や生物多様性保全活動を多くの市民や企業と協働で行い、環境意識を醸成しながら豊かな自然を次世代に残すことを目指して活動しました。

実施結果

本プロジェクトの活動は多くの地域住民にリスペクトされており、協力的な活動人口が増加し、親子でボランティア活動を始めた参加者もいます。今回の助成でかねてから切望していたチェーンソー講座やカヌー教室の開催を実現することができました。活動域も広がりコストパフォーマンス、タイムパフォーマンスの効率も上がっています。初めてのカヌー体験では、日常目になっている地元の河口に多くの発見を学び、大人も子どもも故郷へのシビックプライドの醸成やネイチャーポジティブのまちづくりへの関心を深めることができたと感じています。残す課題はプロジェクトチームの高齢化を踏まえた後継者づくりへのアプローチだと考えています。

〈定量成果〉

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	28回	▶	30回
活動参加人数	1,000人	▶	1,015人(うちTOTOグループ社員 69人)
ごみ回収量	1,000kg	▶	830kg
植樹本数	—	▶	6本(桜)
保全整備した面積	21,000㎡	▶	21,000㎡
環境教育参加人数(のべ人数)	200人	▶	176人



春の渡り鳥観察



カヌー体験ではまぼうの花観察

活動に関わった方の声

《小学2年生のN子さんとお母さん》

朽網川河口干潟が渡り鳥の中継場所であることを初めて知り感動しました。講師の方のお話を聴いて、娘も「鳥さんのために水辺をきれいにしないと」とたくさんのごみを拾い集めました。私たちの故郷で、生き物や自然と共存する大切さを未来に伝えられることを誇りに思います。

《小学4年生のF君とお父さん》

自分の住む身近な川で息子とカヌー体験ができて感動です。また両岸に咲く絶滅危惧種花「はまぼう」を初めて水面から眺めながら、どこか遠くの国へ訪れたような優雅な気持ちになりました。息子も「初めてオールがこげて嬉しかった」と喜んでおり、親子で貴重な体験となりました。

当団体は、立命館アジア太平洋大学 (APU) で2017年に設立された学生団体で、約10か国から集まった50名ほどのメンバーが所属しています。環境保護と持続可能な地域づくりを目指し、地域団体やコミュニティと連携しながら、ビーチクリーンやアップサイクルワークショップ、環境教育、有機農業体験などの活動を行っています。学生の国際的な視野と地球市民としての意識を育み、持続可能な社会の実現に向けて、主体的に行動する環境リーダーとして成長できる場を提供しています。



別府駅に集合して、街の清掃を始めるAPUの学生たち

©APU ECOS

「APU ECOSと未来のリーダーシップ」プロジェクト

◎活動地域 | 大分県別府市

◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

当団体の目標である「地域と学生のサステナビリティ意識の向上と環境リーダー育成」に基づき、SDGsに関連する様々なプロジェクトを実施しました。地域団体やコミュニティと連携したビーチクリーン活動や環境教育ワークショップに加え、学園祭「天空祭」でのアップサイクル展示やオーガニック農園体験活動など、幅広い世代・多国籍の参加者とともに、環境課題に多角的かつ持続可能なアプローチで取り組み、地域活性化を目指して活動しました。

実施結果

助成プロジェクトとして取り組んだ一年間で多くの成果を上げることができました。目標であった「地域コミュニティと学生のサステナビリティ意識を高め、グローバル環境リーダーを育成する」は概ね達成できたと考えています。活動には、想定人数を大幅に上回る学生および地域の方々にご参加いただきました。またごみ回収活動においては計画値の2倍以上の回収量を達成することができました。一方、農園運営企画では、持続可能な運営体制の確保が課題となり、活動形態を訪問型へと変更しました。地域の方々との活動をより深く学ぶ機会を得ると同時に、私たちの活動も広く知っていただくことができたと感じています。

〈定量成果〉

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	19回	▶	19回
活動参加人数	527人	▶	857人(うちTOTOグループ社員 1人)
ごみ回収量	32kg	▶	100.5kg
環境教育参加人数(のべ人数)	—	▶	457人

活動に関わった方の声

《D.N》

普段は何気なく捨てていた生ごみが植物として再生することを知り、身近なところからできる小さな行動を意識するきっかけになりました。日常生活の中でも、環境のためにできることを続けていきたいと思っています。

《A.S》

ごみとしてしか見ていなかったプラスチックキャップが、少しの工夫でこんな素敵なキーホルダーに生まれ変わることに驚きました。楽しみながら環境問題について考えることができ、身近な消費行動を見直す良いきっかけになりました。



水中のごみを分別している様子

©APU ECOS



キッチンスクラップを使った再生栽培(リグロー)体験ワークショップ

「子どもたちが自分を生きることのできる世界へ」という願いから、2009年に設立されました。その理念のもと、途上国フィリピンにおける離島最貧困地域で活動する唯一の支援団体として、地域の生活向上に向けた教育支援や環境保護活動を継続・充実させていくことを目的として活動を行っています。日本と途上国の両方に拠点を持つ特性を活かし、青少年に対する環境活動を通じた交流を実施して、時代を担う世代に、環境課題を含む社会的課題に対するグローバルな視野と行動意識を醸成することを目指しています。



手洗い場で手を洗う子どもたち

©ゴーシェア

フィリピン・パダノン島における、命を支える水環境改善

◎活動地域 | フィリピン・ビサヤ地方 パダノン島
◎助成期間 | 1年間



実施結果

本年度は、離島パダノン島の小学校へのトイレ設置と、ラーニングセンターへの貯水タンク・手洗い場の建設に最優先で取り組み、これを完遂しました。これまで屋外排泄が常態化し、慢性的な感染症や回虫被害の脅威に曝されていた子どもたちが、清潔で安全な設備を手にしたことは、健康維持のみならず学習に集中できる環境への大きな転換点となりました。併せて実施した衛生教育により、子どもたちの間に「自ら手を洗い、水を大切に使う」という主体的な意識が根付き始めていることも大きな成果です。安全な水と清潔な設備という、島の未来を変える尊い機会を賜りました。

〈定量成果〉

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	178回	▶	182回
活動参加人数	2,200人	▶	2,800人
ごみ回収量	2,700kg	▶	2,700kg
植樹本数	—	▶	2,600本
保全整備した面積	—	▶	70,000㎡
環境教育参加人数(のべ人数)	—	▶	2,800人
貯水タンクと手洗い場・トイレの補修と新設	4基・2箇所	▶	4基・2箇所(ラーニングセンター・小学校)
受益者数(実人数)	2,200人	▶	2,200人
衛生教育参加人数(のべ人数)	2,800人	▶	2,800人



各学年混じってのマングローブ保護活動

©ゴーシェア



ラーニングセンターに設置した貯水タンク

©ゴーシェア

活動に関わった方の声

《小学生(環境教育参加者)》

マングローブが魚のすみかになることは知ってたけど、台風から島を守ってくれることも分かりました。育つのに時間がかかることもわかりました。海も木も大切だなあって。僕が植えた木が育ってくれたら、僕の子どもに「パパが植えたんだよ」って話そうと思います。

《学校の校長先生》

当活動での授業は、本校の総合学習に大変役立っています。特に、各機関との連携による実践的な保全活動は、子どもたちに座学だけでは得られない主体的な学びを提供してくれました。島の現状に即しており、幅広い学年に有効です。

《30代 保護者》

新しく清潔なトイレと貯水タンクができたおかげで、子どもたちが安心して学校に通えるようになり、親としてこれほど嬉しいことはありません。衛生的な環境で、元気に成長してほしいです。

当団体は、国際協力を実践する個人や組織の活動をサポートするとともに、国際相互理解の促進および開発途上にある海外の地域に対する貢献と健全な市民社会の発展に寄与することを目的として2014年に設立されたNGOです。現在は、バングラデシュでの気候変動に適応した農業の実践と普及活動を、現地NGO・政府・国際機関等と協働して実施しています。特に主食の稲作に関して多くの事業を実施しています。



AWD(間断灌がい)パイプを確認

©シェア・ザ・プラネット

地下帯水層負担軽減稲作の普及

◎活動地域 | バングラデシュ チュアダンガ県
◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

一人当たりのコメ消費量が世界第1位、生産高が第3位のバングラデシュでは、コメ栽培のために井戸水を大量に汲み上げたことで帯水層が低下し、農業用水のみならず、飲料水の不足、また地下水から有害なヒ素の溶出などが社会問題になっています。こうした問題を解決するために、間断灌がいをはじめとする節水農法の導入・普及ならびに現地の農民たちへの研修を通じて、帯水層の負担を軽減することを目指して活動しました。

実施結果

活動は期中に政変後の混乱や国政選挙などがあつたにも関わらず、概ね順調に実施することができました。乾期稲作での節水型農法の導入に向け、農民グループの組織化と研修、資材提供や土壌改良などを通じ、農民の期待と行政からの協力は当初の想定よりも高く、国立稲作研究所や国際機関IFADからの視察があるなど、対外的にも活動が目目されました。水量や生産高の評価はこれからとなるものの、3月時点で井戸水灌がいを約1/4減少できていることから、農民にとっても灌がいのための燃料費削減という経済的なメリットがあり、また地方行政や農業行政への周知と協力関係も構築できたことから、今後の普及に向けてのスタートアップとしては満足できる結果となりました。

〈定量成果〉

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	480回	▶	625回
活動参加人数	600人	▶	600人
保全整備した面積	3,000,000㎡	▶	3,000,000㎡
環境教育参加人数(のべ人数)	240人	▶	286人
井戸水灌がい量の削減割合	30%	▶	25%(現行の灌がい量からの削減割合)
受益者数(実人数)	3,000人	▶	3,000人(600世帯×5人/家族)



AWD研修の様子

©シェア・ザ・プラネット

活動に関わった方の声

《ダムルフダ郡郡長ティティ・ミトラ氏》

当地では水位が低下し、ほとんどの村々で灌がいと飲料水が深刻な危機に瀕しています。中でもダムルフダ郡の住民たちは夏の高温と水位低下でとても苦しんでいます。本事業によって水位の低下が少しでも抑えられるよう期待します。

《アビジット・クマール・ビッシャシュ》

私は講師として様々な研修に参加し、プロジェクトの有用性を実感しています。プロジェクトでは郡内4つのユニオンの農家に、研修に加え間断灌がいの方法や、種子貯蔵、みみず堆肥、節水用のビニールパイプなどが提供され、私自身も配布の手伝いをしました。



インタビューの様子

©シェア・ザ・プラネット

当団体は、持続可能なまちづくりを推進する国連機関であり、SDGsゴール11「住み続けられるまちづくり」に取り組むとともに、自治体レベルでのSDGs推進を支援しています。世界4地域（アジア太平洋、アラブ、アフリカ、南米）で、スラム等の劣悪な居住環境の改善、災害や紛争からのより良い復興、都市政策や都市計画の技術支援等まちづくりに係る様々なプロジェクトを実施しています。福岡本部が統括するアジア太平洋地域では、15か国の事務所で、現地スタッフを中心に約300人がプロジェクトに従事しています。



現場担当官との施工相談

©国際連合ハビタット 福岡本部

雨水貯水地下タンクの設置活動

◎活動地域 | ラオス人民民主共和国 サラワン県 ターオイ郡 ファイングア村
◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

アジア地域の中でも貧困率が高いラオスを対象に、特に貧困人口の多いサバナケット県で安全な飲料水を確保するため、公民館など建物の屋根を活用し、雨水を地下に貯蔵するタンク「ためとつと」を設置しました。「ためとつと」は施工が簡単のため現地の人々と共に設置でき、かつ現地資材の活用により低コストで導入可能な設備です。設備の設置とあわせて、地元技術者への研修や住民への教育も行い、地域の人々による自立的かつ持続的な運用を目指して活動しました。

実施結果

アジアでも貧困率の高いラオスの中でも特に低所得世帯が多く、上下水道整備が遅れているサラワン県において、学校屋根を活用した雨水貯水地下タンク「ためとつと」を設置しました。地元住民や生徒へのインタビューを通じ、普段使用している地下水の安全性について、長期的な健康への影響に対する不安があることが分かり、安全な水の確保が深刻な課題であることを実感するとともに、本事業への期待の高さがうかがえました。設置工事においては、県水道公社と連携し、現地の状況に即した資材や工法を用いて施工を行いました。本事業で活用した九州の技術により、学校および地域の水アクセス改善につながり、地域全体の生活環境の向上に寄与することを期待しています。

〈定量成果〉

	計画値	結 果
助成対象事業の活動回数	—	1回
活動参加人数	100人	42人
設備設置	1基・1箇所	1基・1箇所
受益者数(実人数)	100人	422人
衛生教育参加人数(のべ人数)	50人	42人



砕石投入

©国際連合ハビタット 福岡本部



地中配管の設置

©国際連合ハビタット 福岡本部

活動に関わった方の声

《学校の校長》

ここでは、依然として水を汲みに行く必要がある家庭が多く存在しています。家からは10～20分ほどの距離ですが、毎日、調理のたびに必要であり、主に女子が担っています。ためとつとの設置により、特に貧困世帯の子どもたちが学校で学び続けやすくなることを期待しています。

《学校の先生(女性)》

地下水を使用していますが、安全性は保証されていません。長期的に健康へどのような影響があるのか分からず、特に子どもたちが心配です。ためとつとの設置により、子どもたちがより健康に過ごせるようになることを期待しています。

当団体は、「不条理の無い世界の実現=生活と権利が保障され、誰もが自分で未来を決められる社会の実現」を目指す国際協力NGOです。ウガンダでは家庭用トイレの建設や安全な水の提供、タンザニアでは教育支援など、地域に根ざした活動を展開しています。メンバーは全員、プロボノ(専門性を活かした無償の活動)として副業や兼業の形で参加。専門スキルと情熱を持ち寄り、「今の時代に合った支援のかたち」を模索しながら、世界の不条理に真正面から立ち向かっています。



ハンドポンプ修理の様子を見る子どもたち

自治体・住民連携型のウガンダ農村部の子ども・弱者の水衛生環境改善

◎活動地域 | ウガンダ共和国 ブタンバラ県
◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

ウガンダ農村部のブタンバラ県で、主に子どもや貧困層の住民など、困難な生活を送らざるを得ない人々を対象に現地のNGOや自治体、住民たちと協働し、トイレの建設、貯水タンク・井戸の整備、石鹸生産、衛生教育などを行いました。これらの生活に欠かせない水に関する支援を通じて、現地住民の安全な水へのアクセスと衛生意識・管理能力を向上させ、水衛生環境の改善だけでなく、住民たちの自立を後押ししました。

実施結果

本事業では、ウガンダの農村部における水衛生環境の改善を目的として、トイレや貯水タンクの設置、井戸整備、衛生教育等を実施した結果、子どもや社会的弱者等の水アクセスの改善や健康状態の増進、水衛生意識の向上が確認されました。一方、現在の活動は人的・財政的資源の制約から限られた地域を対象とした支援に留まっているため、これまで培われた住民主体の水衛生活動のモデルを周辺地域へどのように波及させるかが今後の課題です。今後は本事業で得られた知見を活かし、地域住民、自治体、関係団体等と連携しつつ、他地域に対しても知識や経験が共有される仕組みづくりを行い、持続可能な水衛生環境の改善を目指します。

〈定量成果〉

	計画値	結 果
学校用貯水タンク	3基	3基
学校用トイレ	3基	3基
家庭用トイレ	4基	4基
井戸	5箇所	5箇所
受益者数(実人数)	7,840人	9,486人
衛生教育参加人数(のべ人数)	5,400人	8,163人

活動に関わった方の声

《学校生徒》

良いトイレをいつでも使えるようになったことで、これからはもっと早く学校に来て、これまでよりも学校で過ごす時間が長くなりそうです。また、女子生徒たちは、以前よりもトイレ使用時のプライバシーが確保されるようになり、とても喜んでいました。

《生徒保護者》

トイレの建設により、衛生状態の悪さに起因する病気が減ることで、保護者の医療費負担が軽減されます。また衛生と安全の両面で安心できるようになり、子どもたちをより頻繁に学校へ通わせられるようになりました。学業成績が上がることも予想されます。



トイレ前での集合写真



完成したトイレ

当団体は1979年にインドシナ難民を支援するために発足した「日本生まれ」の国際NGOです。「一人ひとり多様な人間が、各々の個性と人間としての尊厳を保ちつつ共生できる、持続可能な社会」を目指し、難民など人道的危機にさらされた人々に必要なものを迅速に届け命をつなぐ緊急支援と、さらに未来を切り拓くための長期的な支援を、①難民支援、②地雷・不発弾対策、③障がい者支援、④災害支援、⑤感染症対策/水・衛生、⑥提言/国際理解教育に注力し、政治・思想・宗教に偏らないことを基本に、現在は国内外18の国と地域で活動しています。



衛生用品配付

©AAR Japan

難民と地元の女子生徒のための学生寮衛生改善プロジェクト

◎活動地域 | ケニア・トゥルカナ郡カワム難民キャンプ・カロバイエ難民居住区 ナシヨノカ初等校
◎助成期間 | 1年間



プロジェクト内容

ケニア北東部トゥルカナ郡のナシヨノカ初等校では、学生寮にトイレ・シャワー室がなく、衛生環境に課題があり、通学を諦めてしまう生徒も多くいます。この状況を改善するため、同校の女子寮で暮らす生徒のためのトイレとシャワー室の建設に加え、再利用可能な生理用ナプキンと石鹸の配付と教員を通じて女子生徒へ衛生環境に関する研修を実施しました。これらの活動を通じて、女子寮で暮らす生徒を含む女子生徒の衛生環境を改善し、生徒の通学継続をサポートしました。

実施結果

対象校において女子寮の隣接地にトイレとシャワー室を建設したことで、衛生的かつ安全な生活環境を整備することができました。また、教員たちは専門講師から衛生教育研修を受けた後、各クラスで継続的に啓発ワークショップを実施しました。ワークショップでは生徒たちが身の回りを清潔に保つ方法や月経や思春期における身体の変化に関する正しい知識を学びました。衛生用品配付とワークショップは、当初は女子寮に住む生徒のみを対象にしていたましたが、対象校のニーズに合わせて受益者を拡大し、12歳以上の男女すべての生徒を対象としました。これにより、月経が始まった女子生徒への助け合いが広がったことに加え、より多くの生徒が手洗いなどの衛生的な習慣を実行できるようになりました。

〈定量成果〉

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	8回	▶	58回
活動参加人数	170人	▶	1,507人
保全整備した面積	60㎡	▶	60㎡
設備設置	9基	▶	8基 (トイレ4基 うち1基はバリアフリー設備、シャワー室3基、水タンク1基)
受益者数(実人数)	200人	▶	1,537人
衛生教育参加人数(のべ人数)	164人	▶	1,500人



教員研修

©AAR Japan



施設整備

©AAR Japan

活動に関わった方の声

《研修に参加した初等学校教員(男性)》

研修を通じてたくさんのことを学びました。身につけた知識をこれから毎月児童たちに教えていきます。特に男子児童には、彼らの姉妹やクラスメイトが月経を迎えた際どのようにサポートするべきかをしっかりと教えていきたいです。

《女子寮に暮らす生徒、7年生》

新しく寮のすぐ隣に広々としたシャワー室ができたことで、常に清潔でいられるようになり、とても嬉しいです。また、トイレも近く綺麗になり、とても快適です。

《寮母(副校長)》

3学期がはじまり、生徒たちが寮に戻ってくると、すぐに新しいトイレとシャワー室を使いたいとリクエストがありました。毎朝、生徒自身で掃除を行い、清潔に保てるように努めています。今回のご支援のおかげで、女子寮での暮らしは以前に比べはるかに快適になりました。

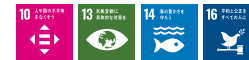
当団体は、東日本大震災の津波体験による住民の海離れや町が全壊し手付かずのままとされている空き地、県内最大高の防潮堤の有効活用などの課題を少しでも解決に導けるようにと、震災より9年ぶりに小泉海水浴場がオープンしたことをきっかけに地元有志で設立しました。これからも長く住み続けられる町を目標に、世代間交流・自然環境保全・親水・伝統継承・防災減災等のさまざまな取り組みを行っています。



探鳥会

水環境を整え自然を保全していくまちづくり

◎活動地域 | 宮城県気仙沼市本吉町
◎助成期間 | 2年間



プロジェクト内容

小泉地区は、海・山・川・ビオトープが小さな町にすべて揃っている珍しい自然豊かな土地です。住民は一体となって小泉地区の未来を考えるため、これまで行政や他団体を巻き込んだ市民参加型の「各場所のごみ拾い活動」景観を取り戻す活動「ごみの調査」探鳥会への参加者増を図り、環境保護活動を柱にした住民同士のつながり・地域の活性化を進展させてきました。

実施結果

TOTO水環境基金の3年間にわたる助成期間での積極的な活動周知PRが、住民・行政に届き、参加者が着実に増えました。1年目の報告書でも記載しましたが、小中学校での講話依頼も毎年いただいておりますし、講話がきっかけで地球環境問題に目を向けた児童もいます。行動→周知→波及のステップは踏めたと思います。来年度からはもっと深く入り、海岸に打ち上げられている牡蠣の殻を再利用して、海や川の質を上げるようなステップアップを考えています。

〈定量成果〉

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	14回	▶	14回
活動参加人数	500人	▶	467人
ごみ回収量	500kg	▶	737kg
保全整備した面積	29,700㎡	▶	29,700㎡
環境教育参加人数(のべ人数)	—	▶	163人
観察した野鳥数	80羽	▶	72羽

活動に関わった方の声

《親水活動に参加した大谷小4年生》

・綺麗な川・中ぐらいの川・汚い川と、見られる生物が違うことにびっくりしました。綺麗な川では生物がいっぱい見れました。

《ビオトープクリーンに参加した小学校4年生とお父さん》

・学校の総合学習で地球環境をテーマに勉強しています。初めてこの場所の清掃をしたけどごみがたくさんあってビックリしました。

・恥ずかしながら子供が清掃に行くと言う前に、親である私が率先して地域の活動に参加しなければいけなかったと思いました。



ビオトープクリーン活動の様子



親水活動

倉敷市水島地域は、戦後、わが国を代表するコンビナートが建設され、高度経済成長を支えましたが、同時に大気汚染公害も発生しました。公害訴訟の和解を受け、市民・企業・行政および専門家等が協働により、地域の環境再生・まちづくりに取り組むための拠点となるべく当財団が設立されました。

公害の教訓を未来に活かし、持続可能な地域づくりを目指して、若者の学びの場づくり・支援、海ごみ問題等に取り組んでいます。



参加者の記念撮影

©水島地域環境再生団体

瀬戸内海の守り人 "海ボウズ" 育成プロジェクト

◎活動地域 | 岡山県倉敷市
◎助成期間 | 2年間



プロジェクト内容

海ごみの約8割は陸域由来といわれており、全国でも有数の用水路王国である倉敷市で、用水路およびその周辺でのごみ拾い活動「海ボウズプロジェクト」を市民に呼びかけ、定期的の実施しました。

その取り組みを見える化して社会に成果を発信するとともに、日常的にごみ回収や発生抑制に取り組む人材を育成することで、瀬戸内海に流入するごみの減量化を目指しました。

実施結果

「海ボウズプロジェクト」を月1回のペースで開催し、多くの方に参加いただいてごみを回収することができました。また、昨年度からスタートした「陸ごみ回収ボックス」でも7ヵ所でごみを回収し、合わせて計270kgものごみが海に流れ出るのを食い止めることができました。これらの活動をHP、SNS等で発信し、地域の人々に「海ボウズ」活動の認知が広がってきたことを実感しています。本活動には、地域の団体・企業に加えて、海外からの技能実習生や地域の高校生など多くの若者が参加しました。清掃活動にとどまらず、「海ごみ推理ゲーム」の開発やそれを活用したワークショップや交流会などにも取り組み、そもそもごみを発生させない暮らしのあり方を考えるきっかけとすることができました。

〈定量成果〉

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	18回	▶	18回
活動参加人数	435人	▶	245人(うちTOTOグループ社員 17人)
ごみ回収量	270kg	▶	270kg



回収したごみの重量を計測中



「海ごみから私たちの暮らしを考えるフォーラム」の様子

活動に関わった方の声

《倉敷医療生協組合員》

コンビニの弁当殻やペットボトルがごみ袋にまとめて捨てられていました。近くにごみを捨てるところがあるのだから、そこへ捨ててほしいと思いました。

《参加した高校生》

初対面の人もいてとても緊張したけど、海洋のことやポイ捨て以外の海ごみについて知ることができたり、考えたりしてとても楽しかったです。グループの方の考えや様々な年代の方と交流が出来てとても良い経験になりました。

《参加した高校生》

フォーラムでの推理ゲームを通してごみが増える理由がポイ捨て以外にもあることが分かりました。ごみを地面に置いただけのつもりでも、そこから川に流れて海へと広がることに気づき、これからも気を付けたいと思います。

当団体は、日本の逆境にいる子どもたちや、世界中の難民キャンプ・貧困地域等で暮らす子どもたちに教育提供・職業支援などを行うことを目指して2008年に設立。これらのサポートを通して子どもたちが自身の夢をかなえ、カーストや貧困に縛られずに生きていけるよう支援しています。

2022年からは、日本国内においてビーチクリーン活動で海洋ごみを回収し、アップサイクルするプロジェクト「TRUE BLUE」を開始しました。



ビーチクリーン

沖縄でのビーチクリーンとアップサイクル体験による5R普及活動

◎活動地域 | 沖縄県国頭郡今帰仁村古宇利
◎助成期間 | 3年間



プロジェクト内容

沖縄における「TRUE BLUE」活動プロジェクトを発足しました。

体験型観光スポットの施設を開設し、観光客をはじめ沖縄に住む住民が参加できる「ごみを唯一無二の作品に昇華させる」場としての定着を目指しました。

また沖縄や世界の海洋保全の大切さを伝えるワークショップを開催し、製作した作品はブランド化して販売することで、海洋問題を知らなかった人々にも海洋問題を知り考えるきっかけを作りました。

実施結果

地域住民および観光客に対する多角的なアプローチとして、ビーチクリーン活動や環境保全に関するワークショップを継続的に実施しました。併せて実施した他団体との協働によるイベント開催などを通じて、海洋環境問題への関心喚起を幅広い層へと拡大することができました。これらの取り組みにより、国内外の参加者が共通の課題として環境問題を認識し、学びから実践へと行動変容を促す機会を創出できました。特に当団体の工房におけるアップサイクル体験は、SNSや口コミを通じて参加者数が増加し、海洋プラスチックの循環意識の定着に寄与しています。スタートアップ期において多面的かつ実効性の高い活動を実施できた点は、大きな成果だと感じています。

〈定量成果〉

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	950回	▶	1,000回
活動参加人数	2,200人	▶	1,750人(うちTOTOグループ社員 14人)
ごみ回収量	3,500kg	▶	950kg

活動に関わった方の声

《40代女性》

工房も古宇利島の綺麗な海が目の前で、最高のロケーションでした。拾ったプラごみがアクセサリーになるまでの過程を体験することができ、とても貴重な時間でした。

《ワークショップ・ビーチクリーン体験に参加した女性、Mさん》

帰宅してから沖縄で体験し、感じたことを周りの方々に共有するなかで、またじわじわと学びや味わいに深みが増してるのを感じております。ありがとうございました。



アップサイクルワークショップ



海洋プラスチックについて学ぶ様子

当団体は、地域在住の一般市民が地元を愛し、大切に続けられる環境づくりを主たる目的として設立しました。習志野の海辺を「生活に密着し、触れ合うことのできる海辺」へと再生することを目指す環境整備を基軸として、里山の生物多様性保全、地域の方や学生・子どもたちを対象とした環境教育、他のNPOや教育機関と連携した環境フォーラムの開催など幅広い活動を行っています。



集合写真

習志野の海を守る会「とりもどせ!ぼくたちの海」

◎活動地域 | 千葉県習志野市 沿岸
◎助成期間 | 3年間



プロジェクト内容

習志野市の東京湾岸エリアで実施していたプラスチックごみなどの海洋ごみの回収・清掃活動などを基盤として、近隣のNPOや大学などの協力のもと「環境フォーラム」を開催し、広く市民や市政に向けて環境保全に関する提言を発していきました。一人でも多くの方に、自然保護や生物が生き続けることができる環境づくりに関心を持ち、行動していただけるよう、実践・啓発を行いました。

実施結果

助成3年目となったこの1年は、過去の2年間の総括として、今後につながる1年となりました。基盤となる海辺の清掃活動については70回近くの活動を実施する事ができました。また、新しい試みとして海辺の埋立地の歴史を伝える展示を地域の祭りで開催しました。年に一回の集大成となるイベント「習志野環境フォーラム」は3回目を無事開催することができ、今後の当該地域の海辺保全の礎となる期間になったと自負しております。さらなる高みを目指していきたいと思ひます。

〈定量成果〉

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	20回	▶	20回
活動参加人数	400人	▶	400人(うちTOTOグループ社員 15人)
ごみ回収量	3,000kg	▶	3,000kg
保全整備した面積	10,000㎡	▶	10,000㎡
有害生物の除去(植物)	50kg	▶	50kg(アレチウリ)
環境教育参加人数(のべ人数)	100人	▶	100人



環境フォーラムの登壇者



毎月の定期清掃

活動に関わった方の声

《環境フォーラム参加者 M.H》
習志野環境フォーラムには毎回参加しております。今回も登壇者の方々の並々ならぬ意欲が伝わり、大変勇気をいただきました。

《環境フォーラム参加者 Y.H》
広い世界の環境問題に目を向ける前に、身近な地域の環境汚染を真剣に考える必要があると感じました。

《定期清掃の参加者 K.Y》
自分の住む街のすぐ近くにある護岸に、このような大量のプラスチックが流れ着いているとは知りませんでした。大変勉強になりました。

当団体は、海洋生物の調査研究・保全に関する事業を行い、国際協力を基に研究者や関係機関との相互連絡を図りながら、海洋環境の保全に寄与することを目的とする団体です。当初はインドネシアウミガメ研究センターの日本窓口としての活動からはじまり、現在はインドネシア、小笠原、関東でウミガメ類の調査・保全活動の他、小笠原でザトウクジラの調査も行っています。



製氷海岸でのごみ拾いの様子

©ELNA

絶滅危惧種であるウミガメ類の海洋ゴミ誤食調査と普及啓発イベント

◎活動地域 | 東京都小笠原村ほか
◎助成期間 | 3年間



プロジェクト内容

絶滅危惧種であるウミガメ類の誤食状況と海洋ごみの影響を調査しました。現地での実態調査とともに、収集した海洋ごみを用いた体験型イベントを開催し、一般市民の方々に海洋汚染の現状を実感してもらうことで、環境保全への認識を高めることを目指しました。生物多様性の保全と海洋汚染問題の普及啓発を融合させた定期的なプログラムとして確立し、参加者の拡大を図りました。

実施結果

小笠原諸島父島におけるアオウミガメ捕殺個体の調査には、計画以上に参加することができました。これまで調査中にゴミの種類などについて聞かれることがありましたが、調査としてしっかり実施することで正確な情報を捕殺に関わる島民に周知することができました。また、普及啓発のイベントに関しては父島および神津島でも実施することができ、初年度より目標としていたイベント開催を行うことができた実感があります。関東でのイベントについては、他の人気イベントとのコラボにて実施したことで集客問題をクリアし、多くの方に海ごみの問題、誤食の問題について知っていただくきっかけづくりができました。

〈定量成果〉

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	30回	▶	40回
活動参加人数	70人	▶	55人
ごみ回収量	10kg	▶	10kg
環境教育参加人数(のべ人数)	130人	▶	168人
その他 定量可能な成果	90%	▶	100%

活動に関わった方の声

《オーナメントづくりイベント参加者(保護者)》
・子どもたちが工夫して、シーグラス(※)や色付きプラスチックなどでデコレーションしていました。自分で拾ったごみを使用するところが良かったと思います。子どもたちが作製したオーナメント(装飾品)を見ると、大人にはない発想でつくられていて感心しました。

※シーグラス
海岸などに漂着したガラスの破片が、長い年月をかけて波や砂に揉まれ、角が取れてすりガラス状になったもの「人魚お涙」「浜辺の宝石」とも呼ばれている。



オーナメント作成の様子



拾ったごみを洗浄する子どもたち

近年、高齢化・過疎化により、農村・漁村地域においては自然環境の荒廃が進行しています。そこで大分県の豊かな生態系および生物多様性を保全し、健全な自然環境に修復・再生し、次世代に継承する責務を担うためにNPOを設立しました。

自然と共生した持続可能な住みよい郷土を伝承するために、環境保全に関するさまざまな活動を行い、広く公益に寄与することを主たる目的としています。



SDGsワークショップ

豊かな水環境を目指す 別府湾エココーストプロジェクト

◎活動地域 | 大分県大分市、別府市、日出町、杵築市、臼杵市、津久見市

◎助成期間 | 3年間



プロジェクト内容

大分県の豊かな自然環境を次世代に継承するための持続可能な地域社会の仕組みづくりを目標として、SDGs啓発・周知推進のための海洋環境教育を学ぶ拠点を創出しました。そこでSDGs目標14の達成に向けた啓発・教育活動を推進するとともに、別府湾沿岸の海岸住民とネットワークを構築し、海岸清掃や海岸植生の保全を地域協働で実施することにより、健全な海岸生態系の保全を図りました。

実施結果

(活動1)
津久見市の津久見漁村センターおよび隣接する海の体験施設「つくみイルカ島」をプロジェクトの核拠点として、SDGs海洋環境教育イベントを中心に春、夏、秋に計4回開催し、184名の参加がありました。また、ゴールデンウィークおよび夏休み期間には子どもを中心に市民延べ1,180人が参加して、環境教室ワークショップイベントを体験しました。

(活動2)
別府湾東岸の4つの海岸を巡回して行う「別府湾エココースト・ビーチクリーンイベント」を開催し、延べ153名の参加で盛大に開催することができました。

(活動3)
広域協働ネットワーク交流会は7月と11月に開催し、地域住民・大学生の計105名の参加となりました。

〈定量成果〉

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	8回	▶	10回
活動参加人数	300人	▶	442人(うちTOTOグループ社員 55人)
ごみ回収量	2,500kg	▶	2,800kg
環境教育参加人数(のべ人数)	500人	▶	1,180人



ビーチクリーン



ごみ分別、環境教室

活動に関わった方の声

《孫と参加の地域住民(60代女性)》

今年は天気が良くてたくさんのごみを孫と一緒に拾いました。地域の海岸がきれいになってうれしいです。

《大学生(20代女性)》

少し暑かったですが、きれいになった海岸を見て達成感で一杯です。次回も参加したいと思います。ありがとうございました。

《スタッフとして参加した大学生(20代男性)》

今年もイベントに参加し、地域の環境について学びました。みんなで協力して海岸清掃する有意義な活動を今後も続けていきたいと思っています。

大分県内で「青少年への自然体験活動」などを行っている民間団体・大学教授・教職員・社会教育主事などを中心にメンバーを募り、ボランティアや単発での活動に終わらない団体設立を目指してNPO法人化を実現しました。行政や学校法人などからの業務委託や助成金などを活用した事業展開を行い、青少年の健全育成に寄与することを目的としています。



子どもたちのウエス作り

子どもたちのウエス作りが別府市の水環境を変えていく！

◎活動地域 | 大分県別府市

◎助成期間 | 3年間



プロジェクト内容

日常生活において生活排水に思いを巡らす機会は少なかったため、小学校など子どもたちが集まる場所へ環境教育の出張授業を行いました。授業内容は「生活排水クイズ」・「ウエス作り*」・「環境保全パネル学習」で構成しました。自分たちで作成したウエスは自宅に持ち帰り、家でも食器などの汚れ・油汚れをふき取る活動をしてもらうことで、「水環境」をより良いものにしていくことへの啓発を図りました。

※ウエスとは、不要になった衣類やタオルを裁断して作る、掃除用の使い捨て布のことです。

実施結果

助成事業3年間の最終年度ということもあり、手際よく4月からの参加校募集と集計が実施でき、7校20クラス+1イベント(ビーチ清掃)にて349名の参加者へウエス作りのワークショップやビーチクリーンイベントを実施することができました。

各校への周知も3年連続だったこともあって、2学期に入ってから追加申込でお断りをしないといけなかった状況が発生するなど、活動の周知が進み、関心を持ってくれる人が広がっていることを実感しています。

〈定量成果〉

	計画値		結 果
助成対象事業の活動回数	21回	▶	20回
活動参加人数	400人	▶	349人
ごみ回収量	12kg	▶	10kg
環境教育参加人数(のべ人数)	50人	▶	30人

活動に関わった方の声

《親子参加者》

・ただのごみ拾いだけではなく、子どもにも分かり易い読み聞かせやごみ分別学習会などがあり、参加して良かったです。

《イベント参加者》

・海のごみは誰かが捨てているのだと思っていたけど、生活や大雨などで日常生活のごみが川を通じて流れていくのだという事が驚きでした。また、ニュースなどで聞いていたマイクロプラスチックの問題がこれほど深刻だとは思っていませんでした。



環境絵本の読み聞かせ



ごみ拾いの様子

これまでの助成先団体一覧(国内)

	No.	活動地	団 体 名
北海道	1	北海道	カラカネイトンボを守る会 あいあい自然ネットワーク
	2	北海道	ぱん ぱん ぱんぷきん
	3	北海道	山のない北村の輝き
	4	北海道	森をたてようネットワーク
東北	5	青森	小川原湖自然楽校
	6	青森	白神山地を守る会
	7	岩手	紫波みらい研究所(代表団体)
	8	岩手	わが流域環境ネット
	9	宮城	梅田川せせらぎ緑道を考える会
	10	宮城	川崎町の資源をいかす会
	11	宮城	カワラバン
	12	宮城	小泉ユニバーサルビーチユニット
	13	宮城	宮城県淡水魚類研究会
	14	宮城	杜の都仙台山ナショナルトラスト
	15	宮城	リアスの森応援隊
	16	山形	鮭川村自然保護委員会
	17	山形	庄内自然博物館構想推進協議会
	18	茨城	Water Doors
	19	茨城	NPO環〜WA
	20	茨城	御前山ダム環境センター
	21	栃木	オオタカ保護基金
関東	22	栃木	わたらせ未来基金
	23	群馬	さなざわ里山だんだんの会
	24	群馬	緑の家学校
	25	埼玉	比企自然学校
	26	千葉	印旛沼広域環境研究会
	27	千葉	印旛野菜いかだの会
	28	千葉	さざなみ
	29	千葉	しろい環境塾
	30	千葉	ふるさと生きがいづくり
	31	千葉	ほたる野を守るNORAの会
	32	千葉	森のライフスタイル研究所
	33	千葉	八千代市ほたるの里づくり実行委員会
	34	東京	荒川クリーンエイド・フォーラム
	35	東京	おちかわの里
	36	東京	白子川源流・水辺の会
	37	東京	ぜんかんれん
	38	東京	DEXTE-K
	39	東京	森のライフスタイル研究所
	40	神奈川	海×TECHプロジェクト実行委員会
	41	神奈川	海の森・山の森事務局

	No.	活動地	団 体 名
関東	42	神奈川	エバーラスティング・ネイチャー
	43	神奈川	おさかなポストの会
	44	神奈川	暮らし・つながる森里川海
	45	神奈川	小網代野外活動調整会議
	46	神奈川	サーフライダーファウンデーションジャパン
	47	神奈川	浜っ子トラストチーム
	48	神奈川	BlueArch
	49	神奈川	ほのぼのビーチ茅ヶ崎
	50	神奈川	ヨコハマ倉造空間
	51	新潟	高根フロンティアクラブ
中部	52	新潟	新潟水辺の会
	53	新潟	ねっとわーく福島潟
	54	富山	金山里山の会
	55	富山	福光ふるさとの森を再生する会
	56	石川	金沢エコライフ事業実行委員会
	57	福井	アマモサポーターズ
	58	山梨	えがおつなげて
	59	山梨	ゼロファクトリー
	60	長野	ステップアップゼミ
	61	岐阜	MY
	62	岐阜	大富山を愛する会
	63	静岡	浜松NPOネットワークセンター
	64	静岡	はるの山の楽校
	65	愛知	ClearWaterProject
	66	愛知	虹のとびら
	67	愛知	ネイチャークラブ東海
	68	三重	海っ子の森
近畿	69	滋賀	神山区いい顔づくり委員会
	70	滋賀	清水川湧遊会
	71	滋賀	たかしま有機農法研究会
	72	滋賀	旅するおさかなサポーター
	73	滋賀	家棟川流域観光船
	74	滋賀	夢工房
	75	京都	川と海つながり共創プロジェクト
	76	京都	水源の里連絡協議会
	77	京都	プロジェクト保津川
	78	京都	ほたる祭改善プロジェクト委員会
	79	大阪	大阪みどりのトラスト協会
	80	大阪	環境教育技術振興会
	81	大阪	花だんごネットワーク
	82	大阪	ふくてっく

これまでの助成先団体一覧(国内)

	No.	活動地	団 体 名
近畿	83	兵庫	アンビシャス コーポレーション
	84	兵庫	松蔭高等学校 Blue Earth Project
	85	兵庫	高砂海浜公園海辺の保全集いの会
	86	兵庫	「峠池」を考える会
	87	兵庫	武庫川の治水を考える連絡協議会
	88	奈良	景観ボランティア明日香
	89	奈良	自然再生と自然保護区のための基金
	90	和歌山	ゴミンゴ・ゴミ拾いネットワーク
	91	鳥取	山王さん周辺活性化協議会
	92	島根	飯梨川再生ネット
中国	93	島根	千鳥のお堀を学ぶ会
	94	岡山	水島地域環境再生財団
	95	広島	大羽谷川流域の環境を考える会
	96	広島	京橋川かいわい あしがるクラブ
	97	広島	酒屋地区自治会連合会
	98	広島	古川トンボしらべ隊
	99	広島	もりメイト倶楽部Hiroshima
	100	山口	小串ヤマグチサンショウウオ保護・保存会
	101	徳島	川塾
四国	102	徳島	環境とくしまネットワーク
	103	香川	クリーンオーシャンアンサンブル
	104	愛媛	エコ・ライフ夢幻村
	105	愛媛	久保・肱川源流を想う会
	106	愛媛	宮前川クリーンネット
	107	高知	こうち森林救援隊
	108	高知	しまんと黒尊むら
	109	高知	ジнде池生物研究所
	110	高知	大正中津川「やまびこ会」
	111	高知	橘若者会
九州	112	高知	西土佐環境・文化センター 四万十楽舎
	113	福岡	アクアリング委員会
	114	福岡	遠賀川流域住民の会
	115	福岡	改革プロジェクト
	116	福岡	香月・黒川 ほたるを守る会
	117	福岡	笹尾川水辺の楽校運営協議会
	118	福岡	津古ふるさと会
	119	福岡	つやざき千軒いきいき夢の会
	120	福岡	中谷地区まちづくり協議会
	121	福岡	東朽網校区まちづくり協議会
	122	福岡	火山里山保全交流会
	123	福岡	ふくおかFUN

	No.	活動地	団 体 名
九州	124	福岡	横代校区まちづくり協議会
	125	熊本	次世代のためにがんばる会
	126	熊本	どんぐりプラットホーム
	127	熊本	やまんたろ かわんたろの会
	128	大分	エー・ビー・シー野外教育センター
	129	大分	APU ECOS
	130	大分	おおいた環境保全フォーラム
	131	大分	佐伯広域森林組合
	132	大分	関の江海岸の自然を守る会
	133	大分	冷川のホテルと親しむ会
	134	大分	水辺に遊ぶ会
	135	宮崎	MFV会
	136	宮崎	高千穂森の会
	137	宮崎	日本スキムボード協会
九州	138	宮崎	みやざき技術士の会
	139	鹿児島	郡山マブニチュード21
	140	沖縄	おきなわ環境塾
	141	沖縄	オン・ザ・ロード
	142	沖縄	宜野湾の美ら海を考える会
	143	沖縄	珊瑚舎スコーレ

これまでの助成先団体一覧(海外)

	No.	活動地	団 体 名
海外	1	インド	ICA文化事業協会
	2	インド	ウォーターエイドジャパン
	3	インド	Deepak Foundation
	4	インド	日本水フォーラム
	5	インドネシア	オイスカ
	6	インドネシア	日本インドネシアNGOネットワーク
	7	カンボジア	World Assistance for Cambodia and Japan Relief for Cambodia
	8	中国	環境資源保全研究会
	9	中国	ひふみや [自然農法]
	10	ネパール	ウォーターエイドジャパン
	11	ネパール	ミランクラブジャパン
	12	パキスタン・イスラム	難民を助ける会
	13	バングラデシュ	シェア・ザ・プラネット
	14	バングラデシュ	日本下水文化研究会
	15	東ティモール	ウォーターエイドジャパン
	16	フィリピン	アジア協会アジア友の会
	17	フィリピン	イカオ・アコ
	18	フィリピン	ゴーシェア
	19	フィリピン	ハロハロ
	20	フィリピン	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

	No.	活動地	団 体 名
海外	21	ベトナム	国際開発救援財団
	22	ベトナム	国際海洋科学技術協会
	23	ベトナム	プラン・インターナショナル・ジャパン
	24	ミャンマー	アジアチャイルドサポート
	25	ミャンマー	オイスカ
	26	ミャンマー	ブリッジ エーシア ジャパン
	27	ラオス	国際連合ハビタット福岡本部
	28	ウガンダ	コンフロントワールド
	29	ウガンダ	難民を助ける会
	30	ウガンダ	道普請人
	31	エスワティニ	ウォーターエイドジャパン
	32	エチオピア	ホープ・インターナショナル開発機構
	33	ケニア	STAND ALIVE
	34	ケニア	Team NAKUSCO(長崎ケニア住血吸虫症制圧大作戦)
	35	ケニア	難民を助ける会
	36	ケニア	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
	37	ケニア	道普請人
	38	スーダン	ホープフル・タッチ
	39	スーダン	ロシナンテス
	40	モザンビーク	モザンビークのいのちをつなぐ会

これまでの助成状況

回	期 間	金 額	団体数
第 1 回	2005年 10月～2006年 9月	1,090万円	12
第 2 回	2006年 10月～2007年 9月	1,560万円	12
第 3 回	2007年 10月～2010年 9月	8,051万円	29
第 4 回	2008年 10月～2009年 9月	1,200万円	16
第 5 回	2009年 10月～2010年 9月	1,102万円	18
第 6 回	2010年 10月～2011年 9月	751万円	10
第 7 回	2012年 4月～2013年 3月	980万円	16
第 8 回	2013年 4月～2014年 3月	1,007万円	20
第 9 回	2014年 4月～2015年 3月	1,300万円	25
第10回	2015年 4月～2016年 3月	1,430万円	22
第11回	2016年 4月～2017年 3月	1,556万円	24

回	期 間	金 額	団体数
第12回	2017年 4月～2020年 3月	9,531万円	35
第13回	2018年 4月～2021年 3月	1,752万円	10
第14回	2019年 4月～2022年 3月	2,465万円	10
第15回	2020年 4月～2023年 3月	2,656万円	10
第16回	2021年 4月～2024年 3月	2,747万円	12
第17回	2022年 4月～2025年 3月	2,478万円	11
第18回	2023年 4月～2026年 3月	2,733万円	13
第19回	2024年 4月～2027年 3月	2,760万円	11
第20回	2025年 4月～2028年 3月	2,759万円	16
第21回	2026年 4月～2027年 3月	3,926万円	20

※第3回、第12回は、TOTO創立周年記念事業として助成総額を増額。
※第21回は、TOTO水環境基金設立20周年記念事業として助成総額を増額。

累計 5億3,834万円 のべ352団体

これまでのあゆみ

年	できごと
2005年	TOTO水環境基金設立
2007年	TOTO創立90周年事業として、助成総額の増額、助成期間の拡大、活動地域をアジアに拡大し募集
2009年	活動地域を海外全域に拡大し募集
2013年	助成総額をステークホルダーの環境貢献実績により算出する仕組みを導入
2016年	TOTO創立100周年記念事業として、助成総額の増額、助成期間を拡大し助成先団体を募集
	第14回フィランソロピー大賞「水と創る企業市民賞」受賞
2024年	20周年を機に、今後もより多くの方に活動を知っていただき、継続して発展していくために、想いを込めたロゴを作成
	持続可能な水循環の確立に貢献していることが評価され「水循環ACTIVE企業」の認証取得
2025年	TOTO水環境基金設立20周年記念事業として、助成総額を増額



事務局長メッセージ

「TOTO水環境基金」は、設立以来、水環境保全活動に取り組む団体の皆さまを支援してまいりました。これまで活動を支えていただいた多くの皆さまに心より感謝申し上げます。本基金では、国内外における生態系や水資源の保全、衛生環境の改善など、多様な分野の活動を継続的に支援してまいりました。地域の課題に真摯に向き合いながら活動を続けてこられ



清掃活動にて

た皆さまの取り組みは、持続可能な社会の実現に欠かせないものと考えています。また、本基金の特長として、TOTOグループ社員が活動現場に参加させていただき、助成先団体の皆さまと直接交流する機会もあります。

私自身も数年前、この水環境基金の活動に参加し、現場の熱量に触れる機会を得ました。実際に活動に携わることで、皆さまの真摯な情熱や、地域の方々の温かさに触れ、活動への「初めの一步」を踏み出すことの大きな意義を改めて痛感いたしました。

このような、協働を通じた体験は、活動への理解を深めるとともに、社内における水環境基金への関心の高まりにもつながっていると確信しています。

今後も助成先団体の皆さまとの連携を一層深めながら、水環境保全活動の輪を広げ、次世代へとつながる取り組みを推進してまいります。引き続き、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

事務局長 田中 義久
(TOTO株式会社 総務本部長)



TOTOグループが取

TOTOグループでは、日本におけるTOTO水環境基金以外にも国内・海外で

り組む環境貢献活動

様々な環境貢献活動を行っています。主な取り組みをご紹介します。

20周年！未来へつなぐ 「TOTOどんぐりの森づくり」

2006年に開始した「TOTOどんぐりの森づくり」は、20周年を迎えました。
社員が自分たちの手で拾ったどんぐりを職場や家庭などで育てて森に返し、地域の皆様とともに森づくりを続けています。植樹後も草刈りや剪定などの維持管理活動を行っています。
また、環境保護への貢献に加え、社員とその家族の環境保護意識の向上を図っています。



活動20周年の記念植樹



岩手県紫波町

新潟県村上市

岐阜県多治見市

長野県富士見町

滋賀県守山市

広島県三次市

福岡県福智町

活動開始時



現在



更地に近い状態からどんぐりの森へ



苗木の植樹活動
(福岡県福智町)



地域の方と協業による活動
(岩手県紫波町)



間伐による保全活動
(滋賀県守山市)

中華環境保護基金会 TOTO水環境基金

2008年に中国における「TOTO水環境基金」として設立し、これまでに孤児院への商品寄付や水環境に関する教育、大学生への奨学金支給、給水設備建設支援など、中国大陸における節水・水資源の保全に寄与してきました。
2021年には中国民政部主宰のメディア団体である公益時報から中国での優秀なCSR活動企業として「2021中国企業社会責任観察報告」優秀事例に入選しました。



小学校向け節水授業

地域の小学校に出前授業を行い、身近な生活での節水が、地球環境や水資源の保全に加え、CO₂削減につながることを学んでもらう環境教育を行っています。



清掃活動

TOTOグループでは世界中の拠点で周辺清掃を実施しています。
清掃活動を通じて、その地域で事業活動をしている感謝の気持ちをあらわすとともに、海洋ごみの多くが陸地からのごみが生産されているということをグループで共有し、海洋ごみの削減という目的意識も持って、地球環境の保全に貢献しています。

